

~~鳥類寫真記~~

探鳥記

總鳥巢
ツザン
高越山
劍山

河部 永

高越山探鳥 Sep. 19 1948.

川田町東 — コシアカツバタ 1 羽 見。 鳴き声

高越銀山附近に? ~~トビ~~ ~~ハヤブサ~~ ~~ノスリ~~ ~~ノスリ~~

ヒヨドリ — 所々の林に? 見。 (金山に?)

・ X 三ノロ

・ トビ ~~トビ~~ — 鳥のついで? = 羽か採餌してゐる

・ ノカクシ ~~ノカクシ~~ — 数羽見。

園の井 部落附近

コゲラ 雑木林に? 多く

トビ ~~トビ~~ — 山の斜面の岩に? 採餌してゐる

ワツチ公園附近

・ コリ ~~コリ~~ ~~コリ~~ — 本種 3 羽 見。 数羽見。

頂上附近

・ カケス — ~~杉林~~ 頂上から南へ下りて所々の杉林に? 見。

中ノころ附近

サシハ

・ ミヅウガク

・ コゲラ

・ カケス

サシハ、ミヅウガク等の林に採餌してゐる。

中ノころの子 (下の杉林に? 見)

高越山探鳥

April 5, 1948

200m 附近

コウライ — 電柱の上の方に管巢を見つけた
 8. 早コウライ交代の穴をほつてみた
 一方が穴をほつてゐる中は地をばねんて
 行つて餌を獲つて来る、今迄はほつてゐた
 ものに水を与へ餌を運んで来たものか
 1つてけり始ぬ。又と餌を運ぶものを
 はねんて行つて餌をとつてく。今迄は
 遠くほつてゐたものに餌を与へ、次にそれ
 かへつてけり始ぬ。高完をほつてゐた
 時は電柱の下まで行つてケを近くまで
 持つて行つても逃げつかぬほつてけり。
 20~30cm位まで止つけると電柱の向
 う側へくゞりと廻つてゐるケを陰くぐ
 り又回をめぐりほつてけりつてゐた。
 尚この電柱の附近には数本の大きな
 な松の木があったが、今この雨は
 を明し、折つてゐた。

コウライヒツ

林の中の隙間にて数羽の群を見

ヒツトリ

川田川附近

大木ニロ — 耕地、草地にて所々に見られ
 トビ — 川原の上で飛翔してゐるのを見
 ヒツトリ — 耕地、川田川附近にて小群を見
 600m 附近 (川の岸上)
 ニロハツ — 路上にて採餌してゐるのを見
 シジウカラ } 林の中にて数羽つゝ見られた
 マカガ }
 800m 附近
 コウライ — 2羽か大木木の折れた梢をこつて採餌
 してゐた
 アトリ — 灌木林の中や道路上にてつゝ見
 数羽の群を見
 1100m 附近
 コウライヒツ? — 林縁に(木の梢か)一羽 地上に下
 りて採餌してゐるのを見

頂上附近 (122)

エナガ — 14羽の大木の横枝に管巢を見
 この木は#の枝には苔が伏山までこ
 りその枝に苔で管巢してゐるから非常に
 かりにくい
 ミリサカヒ — 寺の附近にて数羽見
 コウライヒツ } 森林にて数羽見
 カケス }

200m 附近

フクロウ - 道のそばにはよく建てたフクロウの
大木の洞穴に営巣してゐるのを
発見す巢の穴は粗砂んじい地と
いふより泥で蓋には朽した木
木の粉があるをけり地には何
も敷いてないこと、

卵は黄色で純白の球形のもの
であった

カヤス - モミの大木にたまつてゐるのを数
羽見た

高越山探鳥

Apr. 12, 1948

頂上付近

ミヤマザシ - 寺跡地には多く蓄積期に入つた
~~岩~~ ~~土~~ ~~電線~~ 寺の屋根
后崖等にとつて非常に多く積つ
た。寺の人が使用してゐるが
あつち入りしてゐるより家の
中にあり、いよこさかきかきをした
煙めきの不審の隅に営巣してゐ
た発見した。巢は楕円形で高さ
20cm 幅 10cm 口径 30cm 径の大
木の穴で外部は苔を用ひてゐるが

内部には非常に多くの柔かい鳥の毛が入れてあり
卵は白色のものに白色の地に褐色の小斑を有
したものがあった 数は5個、卵形
径 9mm 幅 7mm 口径 7mm

エナカ - Apr. 5. に発見してあった巣は約 20m 位の
高さの所にあつた外側は苔で覆つてありが
の糸でつゞてあつた 内部は柔かい鳥の毛が
非常に多く入つてあつた (特にフクロウの毛が多い)
卵は一個であつたが大きさは 14.5 x 11mm
で色は ~~褐色の地に~~ 白色の地に褐色の小斑を
あつた 高さ 幅 口径

ヒカウ - 営巣中であつた(寺の庭に捨ててあり)小鳥
木から苔をとつて盛んに木の葉を運んでゐた

高越山探鳥記

Apr. 18, 1948

1000m 附近 (伊吹山附近)

オホトリ - 杉に 2 個 = 羽見

頂上付近 1122m

ルリビツキ - 神社にて = 羽見

ヒカウ - 最頂上の杉の大木の穴に営巣してゐるのを
発見すこれはツグミの何れかの巣と判別
したもので高さ 2m 以上、地上 4m
口径 3.5cm 深さ 18cm 口径 10cm
卵は白色の地に褐色の小斑を有
巢材は藁も、杉皮はほくし木も鳥毛

トドリ — 急斜面の大木の林の根本に巣築
 (2個)のを見す。これは巣と木根と
 の間隙の少しくはくは所處で落葉
 が厚くありてたけで母鳥の卵か
 とをみた (5/1 X 26 mm)
 4月21日

高越山

May. 18. 1948

500m 付近

キセウキ — ヒノキ林にて一羽採集す

カセウキ — 飛翔中に三羽見す

キセウキ — 灌木林にて数羽見す

鳥ニ—ニ—ニ—ニ—ニ—ニ—ニ—

200m 處に4羽4羽4羽4羽と4羽4羽

をかけた見す場合あり

頂上 付近

キハシリ — 節取のモミの木茎より2羽見す

三羽見す

高越山探鳥記

May 23, 1948

200m 付近 (北斜面)

コウシ — 朝=羽が上羽の巣をたぬきより採集す
 22羽見す

カセウキ — 22羽見す 灌木林にて一羽のみをた
 ぬき 非常に香くわびた

トドリ — 22羽見す 林にて一羽見す

700m 付近

カセウキ — 灌木林にて三羽見す

キセウキ — 森林にて非常によく採集す

高越山探鳥記

Oct. 17 1950 晴

川田町 麓 耕地にて

セウキ — キレイ — 一羽見す

コウシ — 夕方用水の上空を飛んでおりの見す。一羽。

100m 付近

トドリ — 灌木林にて一羽見す

コウシ — 松林にて数羽

コウシ — 藪林にて一羽

モミ — 灌木林にて数羽

コウシ — 松林にて数羽

250m

カセウキ — 松林にて数羽

コウシ — “ — 一羽

- アマトリ - 子 - 羽 ~~早~~ 平地にて見)
- ① 金井 附近 400 ~ 700 m
 キキハト - 耕地にて持飼してあるのを見)
- 木ホヰ まし
- ② 釜山 附近 ~~400 ~ 700 m 附近~~ 200 m 附近
 カワカズ - 溪原中にて一羽見)
- ホセキ "
- モズ - 灌木林にて声よく

- ③ 木ホヰ - 麓の耕地 ~ 頂上附近にも羽をみ
 じれも森林中にはあらず 灌木林と
 草地の明い所に数羽かつた (見、ササ)
- ④ コカリヒク - 麓 ~ 700 m 附近の杉林、木立の木にて
 持飼してあるのが見えた。一羽だけ数羽
- ⑤ イカル - 400 m 附近の杉、ヒメの林にてツツツと
 いう地鳴をきたなけり ~~鳴~~
- ⑥ モズ - 麓 附近の少し南 竹の所には多羽かつた 麓に鳴り
- ⑦ ホセキ - 高越釜山附近の溪原附近に
 て少し見えた
- ⑧ セシホセキ - 麓の耕地にて = 羽見なけり
- ⑨ ウグイス - 麓 - 頂上附近まで見えた。右は地鳴
 はかりなかつた

- ⑩ イカル - 700 m 附近の森林にて 5. 6羽の群が持飼し
 2羽の羽をたけり
- ⑪ キキハト - 600 m 附近のモミの木にて数羽が持飼し
 2羽を見えた
- ⑫ ヤマカズ - 700 m 附近 ~ 頂上附近まで見えたが
 頂上附近の森林には多かつた
- ⑬ ヒカル - 700 m 附近の森林にて = 羽見なけり
- ⑭ コカリ - 船室にては多かつたが他所にては見な
 かつた
- ⑮ セシホセキ - 800 m 附近の山頂上の森林(モミ杉等)にて
 見えたが船室などの灌木林にては見
 らなかつた。鳴声 "ツツツツ"
 "ツツツ" または "400" "400" "400" "400"
 と澄んだ声にて連続的になく
- ⑯ コカリ - 牛野郷 - 頂上附近まで杉林にて見
 えた
- ⑰ カズ - 200 m ~ 頂上附近までの杉林、灌木林
 などの森林中に沢山の鳴
- ⑱ ヒカル - 麓 ~ 800 m 附近までの森林。鳴に多
 かつた
- ⑲ クリコウ - 260 m 附近の杉、柏の木にて多羽を見えた
- ⑳ ウグイス - 麓 - 頂上附近(船室)にて灌木林にて
 声よくかきたが地鳴であつた

- ①9 ナ=コウヤクシ - 700m付近の森林中を飛んで一羽の鳥
ふしきつと見えたか - は)ナリ(2羽)
- ②0 コマエビシ - 船倉附近の灌木林中にて地上にスリテ
接餌してゐた一羽(2羽)
- ②1 Xニロ - 600m - 店に附近まで声かきおこした
か - 船倉の灌木林中にては 7.30~1.00
羽の群が 鳴きわたり盛ん接餌
してゐた
- ②2 キニハト - 舟ノ井 附近の畦地にスリテ接餌してゐた
- ②3 ヤマトリ - 船倉ノ木ノ原にて一羽の鳥を見た
- ②4 カワカラス - 高ヶ鏡山附近の溪流中にて一羽(2羽)
- ②5 コウヤクシ - 川田町水田上空を飛んでゐた一羽(2羽)

高越山探鳥記

Dec 31, 1948
小雨

- 川田町 本
- セウキキシ - 寺裏にて一羽(2羽)
 - イカル - 上空を飛ぶ約 50羽の群(2羽)
 - キニハト - 上空を飛ぶ一羽(2羽)
- 高越鏡山 附近
- カワカラス - 鏡山下の鏡毒の川にて一羽(2羽)
 - ホホヰロ - 灌木林中にて数羽(2羽)
 - ウグヒス - " " 二羽(2羽)
 - イカル - 上空を飛ぶ一羽(2羽)
 - ホウ - " " 一羽(2羽)

- 100m 付近 (東斜面)
- Xニロ - 松林にて約 20羽の群を見た
 - エナガ - 松林にて約 10羽 ~~Xニロ~~ Xニロと群(2羽)を見た
 - コウヤクシ - くぬぎ林にて産をさく
- 湯豆 付近
- ~~セウキキシ~~ - 寺裏にて約 20羽の群を見た
 - ヒヤキキシ? - " " 2羽(2羽)
 - コウヤクシ - 寺裏にて数羽(2羽)を見た

高越山探鳥記

Mar. 17, 1949

- 川田町 (中)
- モス - 甲線とまつたか - 一羽(2羽)
 - ツバメ - 2羽(2羽)とくわいの鳥(2羽)を見た
- 高ヶ鏡山 麓
- コウヤクシ - 一羽(2羽)とくわいの鳥(2羽)を見た
 - ホホヰロ - 数羽(2羽)
 - カエラツカ - ホホヰロと共に一羽(2羽)
- 200m (木道) 付近
- ヒナ - 松杉等の林にて一羽(2羽)とくわいの鳥(2羽)
- 300m 付近
- Xニロ - 松林にて数羽(2羽)
 - アツカ - 松林の下(灌木林)にて2羽(2羽)

400m 附近

ヤマガサ - ヒノキをの地の灌木林にて2羽見

鳴 4" 4" 4" 4"

"2" "2" "2" "2" 4" 4" 4" 4"

ヒカサ - ヒノキをの灌木林にて1羽見 (2羽をのりて)

鳴 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4"

ホホシロ - 杉の木を切り倒したカマの帯にて2羽見

600m 附近

ミヅウガサ - スズキ灌木の生えた北斜面にて

(杉林) 採餌して鳴る

鳴 1" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4"

又は 1" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4"

ウリ - 北斜面の灌木林(葉は全部落した)にて

1羽見 鳴 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4"

コケサ - 1羽 } 前灌木林にて見

エナカ - 2羽 }

頂上附近

ミソササギ - 寺附近にて採餌して鳴る

ホホシロ - 耕地にて数羽見

1000m 附近

ミソササギ } 北斜面杉林にて声をまく

ヒカサ

高ヶ山探鳥記

Mar 31. 1949

山麓 (100m 以下)

イカル - 畠中のナラの木にて3羽とまっていたのを発見

又近くの榎の木にて約30羽の群が新芽をむいてゐた

シメ - 畠中の榎の木にて1羽とまっていたのを発見

又杉林の又榎の木の数羽採餌してゐた

エナカ - 数羽が灌木にて採餌してゐた

100m 附近

エナカ - 杉林にて声をまく

500m 附近

キツツキ - 東斜面ヒノキ林にて声をまく

1" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4"

中野郷附近

カサ - 杉林にて1羽見

100m 附近 (木道)

コケサ - 灌木林にて1羽見

鳴 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4" 4"

頂上附近

ホホシロ - 数羽が路上にて下りて採餌して鳴るのを発見

ミヅウガサ - 灌木林の地上にて採餌して鳴る

ミソササギ - 峠の寺附近の灌木林にて採餌して鳴る

山麓にて

アツシ — 羽
ニシキヒツキ — 1羽

寺の庭にて見

アマツハツ — 川原川上空を飛ぶのを2羽見

高杉山探鳥記 May 30, 1949

山麓にて

木ツバ — 啼きまく
セウツクニツク — 2.80m 付近の樺木林にて鳴きまく

442 442 441

100m 付近

ヒトトリ
コナリ
セウツクニツク
コナリ
ニシキヒツク

松、ヒノキ、杉等の混雑林にて
声をまく

木ツバ — 路上にて採餌してゐる

150m 付近

セウツクニツク — 樺木林にて声をまく

200m 付近

木トキス — 松、杉等の雑林にて声をまく

たむたむた

エナガ

ウグイス
セウツクニツク
X 3 (1-2)

落葉林にて見

コナリ — 路上にて採餌してゐる

600m 付近 (中野御付近)

サセウクヒ — 鳴きながら採餌してゐるのを見
441 — 444

ツバ — 電線に止り雛が電線に6羽ヒツク
2羽のを見

ツバの園 付近

コナリ — 落葉林にて声をまく
イカル — 雑林にて声をまく

1000m 付近 (本道)

オホトリ — 本道の近くの道の側には ~~草~~ 常葉
(2羽のを見) 葉林、卵白色

木トキス 付近

木トキス — 一部落葉林にて声をまく

高城山採鳥記 Oct 9. 1949

150m 附近

x エドトリ - 杉林にて羽見

300m 附近

o エミウガシ - 灌木林にて声をきく

ツ-ツ- ツ-ツ-

又は ツ-ツ- ジュクジュクジュク

中野郷附近

キキシ - 声をきく

頂上附近

ツツ

o エミウガシ } 声をきく

ゴエウガシ

ヒカシ

カケス

ツツヤ(合)附近

x エドトリ } 灌木林にて声をきく
ミロハ

高城山採鳥記 April 2. 1950

100m 以下

アヒ - 杉の実をたべていた (約20羽の群を見)

エドトリ

x 木木シロ

o ウグヒス

コナリヒ

ミロハ

アヲク - 杉の木の頂上にて盛んに鳴つてゐた

200m 附近

x 木木シロ - 灌木林 路上にて採餌してゐた

300m

カケス - 杉林にて羽見

o ウグヒス

x シロ

o エミウガシ

o ~~エドトリ~~ ウグヒス - 灌木林にて - 羽子を見 (1羽)

頂上附近

ヒカシ

o エミウガシ

ヤアカシ

エナカ

x 木木シロ

頂上—船窪内

アリ—灌木林 ~~中~~ 中の地上にて採餌してゐる
 ①早=羽を捉へた。(人にもあまり恐ろしくなかつた)
 コガシ—船窪にて=羽採集す。灌木林には
 多かつた

扇越山探鳥記 April 29 1950

100m

○ コガシヒトリ
 × 木ノヰル

■ キシ(♀) — 草地にて一羽見

300m 付近

① センダウシツヒ — 灌木林中の電線に止まりて鳴
 いてゐた (一羽採)

ウグヒス

○ コガシヒトリ

800m

○ コガシ
 イナカ
 ヤマガシ
 • ミヅウガシ
 × シノ
 • ヒカシ

頂上付近にて

① ヤシ — 森林(雑木)にて2羽の群を見
 多く鳴いてゐた (一羽採)

✓ ② サニシツヒ — 森林にて数羽を上空を巡
 して鳴きながら飛びまわり交尾して
 ゐた (一羽採)

③ キビツキ — 北斜面の森林中の陰気な所にて一羽
 採集す。

④ カヤス — 一羽採集

• ミヅウガシ

• ヒカシ

○ ミヅウガシ

○ センダウシツヒ

○ コガシ

× 木ノヰル

• 奥ノ井 付近

✓ サニシツヒ — 奥ノ井上の森林にて二羽見

里ノ越 附近 1400m

カチス

コバウ

ヒバウ

コバウ

ナシエオ、アカゲツ — 大木の上にはかき採餌してゐた
キヤウキヤウ

キキカシ — 家の裏根にヒキマツリ等が採餌してゐた

ミリサガシ — 谷川附近、遠くまで薄木林の中

ウダヒス — 近藤にて鳴いてゐた

ゴシウカウ — 大木の大木の上にてゐた

サニエウカ — 採餌中と見えてガリガリ又はガリ

カシバ — 声をききヒューヒュー

1500m

ミリサガシ — 谷川にて数羽見えた (丸笹山)

アヲハト — 丸笹山森林にて声をきき

ホーヲ、ホーヲ、ホーヲ、ホーヲ

コバウ

ナシエオ、アカゲツ

西島沖孔 附近

ゴシウカウ

エトカ — 薄木林にて数羽見えた

鳥 4羽、4羽、4羽、4羽

2羽、4羽、4羽

カチス } 声をきき
コバウ

丸笹山の上 附近 (1700m)

キキカシ } 採餌中と見えた

コシアカツバメ

ホホシロ — 草地にて採餌中と見えた

小剣 附近 (1700m)

コマドリ

コバウ

コバウ

} 薄木林にて声をきき

大剣 附近 (1800m)

アヲハト — 約20羽の群と見えた

コマドリ — 森林にて非常に多く鳴いてゐた

(ヒキマツリヒキマツリヒキマツリ)

ミリサガシ — 河津水場附近にて見えた

オホホシロ? — 1羽見えた

キキカシ — 路上にて採餌してゐた

ヒバウ

コバウ

コバウ

ゴシウカウ

アヲハト — 路上にて採餌してゐた

鳥 ホーホーヲ、ホーホーヲ

又はアヲハトと見えた

ほらかみの浅附地

カラス

コカウ

ミツササギ

} 森林にて見

谷川近くの崖に数羽おた
警戒声 411 411

頂上付近

ウグヒス - 道の中、灌木林内にて見

コカウ - ミツサ、ツカ等の林の多い

木ホシロ - 草地にて見

アマツハヤシ - 上空を飛んでみた (200)

一、二の森付近

ナミエホアカサシ

コマドリ

カラス

ヒカク

コシメカク

コケウ

ウグヒス

エリウシロヒ - タクガニハの木をよって盛ん

に鳴って見ると見

444-44 4-442 4-4424 -

又は442-4-442

又はヒ-ヒル ヒ-ヒル ヒ-

又はヒ-ヒル ヒ-ヒル ヒ-ヒル

木の上にみた 時々小ホシ声で411 411
と鳴いてみた

目録

①コカウヒ

黒松(850m), 夫婦池(1500m) 等の耕地, 草地
灌木林にて見られた。夫婦池にては約20羽
の群が飛んで見えた

②ホホシロ

1112(600m) 黒松(850m) 夫婦池(1500m)
頂上付近, 丸道山頂上等の草地, 灌木林にて
一、二羽ずつ見られた。水も森向けた明の所
にみた。高夫婦池付近の小ホシロの木にて
は管業して見えた(9月5日)

③サセリクヒ

1112 附近 - 見、越 附近まで見られた。多量に
鳴きながら上空を飛んでみた 411-411-
1112 附近には多かつた。 ヒリリ-ヒリリ-

④ゴシロカク

見、越 附近より越へ頂上付近まで見られた
かニ羽一羽に2羽の場合が多かつた。又地上にて
採餌して見えた

⑦ コガラ

1200m附近 ~ 頂上附近まで見られたが
特に頂上付近のモミ、シラビの林が多かった

⑧ ヒカウ

見越 付近にてコガラの群にまじっている
多数羽を見た

⑨ ヤマガタ

川又 ~ 夫婦池 付近までの灌木林、森林等
で見られたが、その数は少なかつた。ツツヒューツツヒュー
警戒声モヤキキキ

⑩ エナガ

西島神社 付近の灌木林にて数羽見た
4羽 4羽、4羽 4羽 又は 4羽 4羽

⑪ メジロ

川又 ~ 見越 間 西の森林にて時々 = 羽
見たが、又西島神社 付近にて鳴き声をきいた

⑫ ウグヒス

夫婦池 ~ 頂上 付近までの灌木林、笹の林
にて時々鳴いてゐた

⑬ エリクシクヒ?

= 森の森林にてクケカハハの林にまぎれて鳴いて
羽のうも見た。しかし本種かどうかは(は)きり(か)
4羽 - 4羽 4 - 4羽 4 - 4羽 4 -

他は 4羽 4 - 4羽 4 - 4羽 4 - 4羽 4 -
又は 4羽 4 - 4羽 4 - 4羽 4 - 4羽 4 -
又は ヒーヒン ヒーヒン ヒーヒン ヒーヒン ヒーヒン ヒーヒン。ヒヒヒヒ

⑭ ヒヨドリ

川又 ~ 1100m 付近までの森林にて少数
見られた

⑮ カラス

ハシボリカハシボリカハシボリカハシボリカ
黒松 10m にて = 羽見た

⑯ カケス

見越 ~ 一森 付近までの森林にて
時々見られた

⑰ オホトリ

1200m ~ 見越 南の厚気な森林にて
少数見られた

⑱ コケラ

見越 ~ 西島神社 付近までの森林にて
少し見られた

⑲ ナミエオホアケラ

1300m 付近 ~ = 一森 付近までの
森林にて声かきかれた。ツツヒュー又はヒヒヒ
ヒヒヒ

⑳ アマツハシ

頂上 付近、にて時々、2.7羽か、飛んで
たので、どこか管理場所があったと推う

⑩ コミアカツバシ
黒松、頂上付近(又 笹原上)にて = 3羽
つづ見られた

⑪ コマドリ
1,700m 付近 ~ 頂上 付近までの森に数
多いうつあつた。1,300m 付近の森林に
つづき、2羽は4ヶ所であつた
ヒキウラウラウラウラ 又は ピーター 羽 3羽

⑫ キセキレイ
夫婦池や大剣 付近にて見られたが、頂上 付近
丸笹山頂上にて 飛翔しつづつて見られた

⑬ ミリサギ
見、越 付近、大剣 付近の湿度の多い 灌木
林にて 数羽見られたが、又、ほろかみの流
附近の 崖地にて 見られた

⑭ アヲバト
丸笹山 (1500m 付近) 大剣 付近の 森林にて 声
をきいた。ホーッホーッホーッホーッホーッ。
又は ホーッホーッホーッホーッホーッ。
アッー 等と きこえた
高 大剣 付近にて 約 20羽の 群を見、地土
に下りて 採餌しつづつて見られた。

⑮ サシバ
見、越にて 声をきく ヒーッ

北島町 柏茂村 附近 調査記録

Nov. 4, 1950 晴 7時 50分 19.3° 10月 19.7°

スズメ - 主として 人家 附近には 相当 数見られた
が、稲田にて 多少 数見られた
ホホシロ - 広い 草地、耕地にて 全然 見られず
柏茂村の 海岸沿の 防潮林 (サトウキビ)
にて 3羽 ~~見られた~~ 見られたが、2羽の 方は
稲刈り 木の 梢にて 鳴つてゐた

キツツ - チューチュー チューチュー
アヲゲ - 所々の 灌木林にて、声か、聞かれたが
柏茂村 長原 附近 (高野) の 葎の 中にて 是
多 数見られた

ホホアカ - 柏茂村 長原の 海岸の 葎の中にて 2羽
見られたが、2羽は、鳥 木ホシロより、細い
金屬的 な 声で、ツツツと 行く

コカワツヒ 所々の 草地にて 数羽づつて 見られた
が、柏茂村 飛行場 近くの 草地に
ては 20羽 余りの 群が、向陽に、まわつて
採餌しつづつて見られたが、又、同村 長原の
葎の中にて 約 20羽 位の 群を見た
が、3羽 又は 10羽 位の 群に、なつてゐたが
主として 木の 梢にて、つづつてゐる 場合が
多かつた

モス - 各地にて多数見られたが、人家の傍
や木の生えておいた所に多く見られ、草地にては
見られたが、少

キセキシ - 北島町にて上空を飛ぶ - 羽を足す
の羽があった

~~モス~~

ハクセキシ - ~~北島町~~ 松茂村 各地の路上、草原
水田、水田等にて多数見られた
~~北島町~~ の付近にはセウロモキシが少な
く、然る方なかつたのは面白い

ヒコドリ - 北島町の竹藪にては相合、~~見られた~~
~~松茂村の草地~~ 松茂村の草地の上空を5羽の群が"とん?"
22羽の群が

ヒバリ - 稲田跡、耕地にて3,4羽見られた
人は単独であった

ヒバリ - 各地で見られたが、松茂村飛行場
跡の草地にては非常に多く見られた
又時々上空にて"轉つてゐるの"であった

シロクビキ - 人家の付近、飛行場跡の草地、~~水田~~
等水田跡等にて採餌してゐたが
単独にとまっていたのがあった

ウグヒス - 松茂村海岸の防潮林(クマツサの灌
木林)にて地"鳥"を捕らいたのがあった

セツカ - 松茂村長尾の葦の中にて2羽見られた

カキミ - 水田附近、水溜にて見られた

カキツヅリ - 各地の小川や分切りにては相合多数見
られた

クウサギ - 松茂村飛行場跡附近の草地
にて採餌してゐる2羽を見られた

トビ - 各地にて見られたが、草地への落ちた
ときつておののかまがあった

ハシホ"ツカ" - 各地にて見られたが、"全部木に落ちた"
ハシホ"ツカ"又は見られたがなかった

剣山採鳥記 1949年7月28日

ウツロ - 川又附近より頂上付近まで声あつた
た

ホホシロ - 川又附近 草叢にて鳴つてゐる一羽

ツツロ - 附近にて一羽見えた

ホセキシロ - ツツロ - 川又の草叢にて一羽 大樹の幹に
附處にて声をきく

ヒヨドリ - ツツロ - 900m 附近の森林(全木)にて
12羽をきく

コウノトリ - ツツロ - 900m 附近の上室を飛ぶ一羽
見えた

コノハシロ - ツツロ - 上 1000m 附近(山小屋)にて数羽
見えた

ホトトギス - ツツロと 1000m 附近の森林にて声を
きく

エナガ - 1100m 附近の森林にて一羽見えた

コノハシロ - 一見、雄、頂上にて声をきく

コノハシロ - 一見、雄、頂上間 / 600m 附近より
上はあり、1700m 附近の大樹の幹に
付處にて非常に多し

アツシロ - 頂上付近にて一羽、見、雄、上空を 100
羽の群が西の方へ飛んでゐるのを見た
♂ C. n. - C. n. -

ホシ - 頂上付近のツツロの頂上や岩の上又は
一羽(♀?) 見えた

ヒヨドリ - 頂上付近のツツロの頂上や岩の上又は
ヒヨドリの樹の空を静かに(雄、ヒヨドリ
より長時間は視し)して空を飛んで
ゐた。

ヒヨドリ - 頂上付近のツツロの林にて一羽見えた

コノハシロ - 1000m 附近の大木の幹に
あつた声をきく、4羽、4羽、4羽、4羽、

ホシ - 一見、雄、1500m 附近のヒヨドリ
や他の大木から飛び上つてゐる2羽
にて一羽を見えた、警戒声しきり
飛んでゐる、4羽、4羽、4羽、4羽、

コノハシロ - 一見、雄、川又付近にて
見えた。

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The handwriting is somewhat faded and difficult to decipher, but appears to be a continuous block of text. The paper is slightly wrinkled and shows signs of age.

18th June 1846

劍山採集紀行

No. 1

廿一日 曇 川島→貞老→川又→見越

アリ一番列車にて貞老駅に集合し汽車と併走、終
になつてゐる川又川のバスに便乗、バスに揺られ
ながら鳴瀧や土釜等の奇勝を眺め、約一時間
の後剣山麓の川又に着いた。ここでバスを下
りひとまつ採集の用意をして右程 雨朱も降らな
いうちに早くもカラスアゲハを見、之を採集した。

約一軒登つて各を渡り南岸の川径を登る。この所
近辺には^{遺跡}遺かゝるに^昔昔籠と云つて人家がまば
らにある。この人家の上には川又神社があるが
我々はここで晝食をとつた。神社の森ではゾイ
シヨウモリやクロヒメガモトキキ等が飛んでゐるのを見
たが、~~鳥~~ヒヨドリやホトトギス、^鶯鶯が鳴つてゐる。
貝類班の川原田君や日野君は神社の横の藪林
にもぐり込んでシコクゴマがヒ（一軒屋の大きめの剣を
ケし採集してゐる粘である）

ここを十一時過ぎに去るつてからは相当急な坂道にな
つたが、空が曇つてゐるを爲か去年の粘には勝つた
かつた。途中からは毛雨が降り始め、后川君は
アツハもいりて云う美しい蝶をとつたが、世には何も
収穫なく、しはさくして山小屋にまつた。

この家の軒には薪を沢山積んであるが、この木には老
卵の石が多くの珍らしい甲虫（特にカガリ類）が集
つて来た。しかし今年には薪が新しくつたを爲か甲虫
は全然集つておらず全くの無期待外れである。
この家のまはりには非常に古い山鹿が肉餌してあつた
傾斜に島には一面にアツキが植えてあつた、このアツキ

の花には沢山のウツナミミシカが集つてゐた。
この家の老人は自然の面白いかつうとて木を利用
して「アリス」の工藝品を作つたり又盆栽をする
のが好きで、剣山の特有植物である「ニロウバ」や
又「アリス」はこれにもなつていつて自慢にしてゐるが、
ふしつ材が家の前に鉢植に飾られてゐる。

色々とお話を聞いた後、いさよ祭(古祭)の附
近かたはあまり景でない「ギンザガク」の道になつた。
途中の系始林ではナミエオアカゲウ(キツツキの一種)
の木を左にたいてぬきの見、又「アリス」の可憐な花を聞か
なかつ、三つ月の谷を横切つて少し登ると「ダケカニハ」
の林にはいつた。ダケカニハが現れると夫婦池も近
いことを知り、勇気ある「んぐん登り」しは
くして夫婦池に着いた。(ここには二つの池があるため
にこの名前がついたもので、これを又雄池雌池と云う)

去年はこの池にも「んぐん」といふ水がなつたのを「今年
は雨が多かつたから一杯水がたまつた」

池の近くで休んでゐると小雨が降り始めるので「まも
なくここを去る。この月の目的地である「越まで」
山腹の道は約二里を半時間程で歩き、越へつた
見、越へには神社と寺とがあり、周りを合せれば、数
百人も泊れる程の大きな家がある。

我々は車の方へ行つたが、快く部屋を分けてくれな
いで「女んな荷物」を置かなくていい。尚、ここに着
いたのは三時頃であつたが、あまり早いには女んな
撃いた。月没まで相当な間があつたが、その間、ぬ
れた物をはかしたりして休んだ。

夜床についたら、蟻の総攻撃を受けると、我々は

これ等をD.D.T.やB.H.C.で撃退しぐつすり眠った

廿二日 晴 見越 → 頂上付近 → 見越 オホ!! かんさつ?
 朝 眠がさめると昨月の雨は夢のようで、空は一片の雲も
 なく晴れ、みんな盛んに歓声をあげてゐた
 はやく食料をすべて用意をし、採集用具と靴等を片づ
 けを身につけた軽装で出発した。少し登ると林のやが
 らエゾビロリの異様な声が聞こえ、何處かでウグイスも
 ないてゐた。一軒屋登った竹まに木がまばらになり
 あるりがひらけて立枯れた木が表れ一面に笹の
 まきと所謂高山の風景を思わせる所に出た。

これより少し登った所には西島神社がありこの神社
 の下の方には、いつかの徳島新聞に載つてゐたと思ふ
 が吉川英治氏の鳴門秘帳に出て来る向者宇
 がある。この時は中へ入る用意をしてゐたので、只宇
 のある所だけ確かめあつた。西島神社の下の高
 さ十四、五米ある断崖を登ると宇の入口が狭いが
 ここから西南の方を見ると非常に眺めがよく一面の原
 始の林の中に一本の木をさえてゐる。次郎^{ジロウ}文^{ぶん}雄^{ゆう}
 意(飯山の西側の山で高さも飯山と同じ位であつた)が「緑の美
 しさを見せてゐる。崖を入りて再び登り始めたところ
 カニバの林になり、又一面に白い花を咲かせるニョク
 オウドの花には、ウツギと、ウラボシとサアカタテハ等々
 蝶ハナガキリ類、その他非常に多くの蜜蜂^{ハチ}の
 類が集つてゐた。その後石灰岩の露出した小径
 を登るとまもなく大飯の神社についた。
 ここには斜面に非常に大きな石灰岩が突き出
 してありこの岩の上にさえてゐるギンロウバイは
 天然記念物として指定されてゐる。

又全国的に有名な釧山のコアカリもこの付近に一番多くあり、四方の原始林からヒキキウウウと云う美しい声が南へ来る。

大釧神孔附近の上は一面に笹の生えなダケカニバの純林があり美しい皮膚を包せてゐる。

だんだん登りに従つて木がまばらになり木が明しくなつて来て尚もなく頂上についた。

頂上は非常に高く大きな木は一本もなく一面に小さい笹や雑草(高さ十〜二十センチ)が生えてあり

老年期の山の美しい曲線を示してゐる。頂上より東を見れば吉野川下流及び紀州の連山を眺め、南には室戸岬や大平洋の荒波を望み得る。

三角尖から少し東へ寄つた所には純白にぬつた釧山測候所がある。この測候所は保溫や避風

に~~用~~耐へるため家のまわりには石垣を積み窓は全部二重に出来てゐる。石々とした高所に立つた

我々は思ふ存分駆けまわり生葉や花を採つた。その後三角尖で次郎笹を眺めながら弁当をたべて昼食後はみんな別れ別れになつて採集した。

僕は往々若山川若と共にホシカラス(普通のカラスより小さく体一面に白い斑がある)を観察するが、一森の方へ下りて行つたがホシカラスは現れなかつたのでダケカニバの皮をはいで持ち帰つた。(葉に生つてゐるのはこの皮にはいぢない皮である)。帰る途中ニコクエラツの林でウグイスやツグツグを見つけた。これは若鷲期を終えて群を成つてゐた。

才三日 曇見越 → 西島神社 (土庫) → 見越

この日は朝食後採集用具も懐中電燈を跨って
去勢前日と同じコースをとって西島神社まで登り
向者宇の中へはいるた。人々は二ヶ所あって、はいるの
に少し窮屈であるが中へはいると少し急なところ
り岩が去た中へはいるた。所を五、六米はいると行く
と大人が四、五人位ははいるた所があるが
湿気が非常に多くてなかなか人の住める様な
所ではない。向者宇を出てからは岩の上で休
み、又霧の中へツガの大木を攀いながら採集し
てゐるナミエオ、アカゲウ(キツツキの一種)を見つけた
採集出来なかつた。しばらくして見越へ帰って見
て三時頃であるが、みんなは先に帰って来て盛
んに将棋をやつてゐた。また時向が早かつた
ので石の岩、山川君と共に赤の裏山の密林へは
いて見つけた。たいしたものは採集出来なかつた。
しかし飛陸貝をとつてゐた川真田君がミナツチムリ
モチという寄生植物をとつて来るのには少し驚
かされた。夕方になつて赤の縁側に腰をかけて
みんなと色々雑談してゐる途中ハニノオ、ハリカ
キもよく珍しいカキリキが飛んで来て之を採
集した

才四日 曇見越 → 清浄橋 → 谷口

朝少し早く起きて荷物を整へて寺の人に社をいって
出発。原始林中の細い道を入りて行ったが一軒
位下りた所に山の斜面を南壁した所があり
先頭を行つてゐた山川君はここで非常に大きな
ヤマカガシを見つけた。之を採集した。この地色は何

かのんでおて一番太い部分では我々の腕より
 太かった。そこを下りた所にもう一つ所周遊した
 所があつたがここではアサギアサギがゆつくり
 と飛んでゐるのを見その近くでは又大きなハ
 カガミを捕つた。之は石川君が捕つたのには
 又はないが平地では見られぬ、稀な大きな鳥
 であつた。昆虫の羽はヌズキヒゲナカガキリヤカ類
 不明のカガキリをニ頭持集した。ここを少し下りた所
 の森林で、グツ、グツという異様な鳥の声を聞いたの
 がその音を覚えてと一羽のブツホウリウがゆつくり
 と飛んでゐるのを見たが谷を隔つた向うの山にも
 ニ羽飛んでゐた。ブツホウリウを見るのはこれが
 最初であるが意外なものにさうして非常にうれし
 かつた。(ブツホウリウというのは鳴声からついた名前であ
 るがこの稀な深山の森林中に棲んでゐる
 古来 佛・法・僧と語くといわれゐたが近年になつて
 或る鳥類研究者からによりこの鳥が佛・法・僧と鳴
 くのではなくこの鳥と同じ環境に棲むコノハツツ
 (フクロウの一種)が鳴くのであると云ふことがあつた
 それで僕の見たものは"佛のブツホウリウ"即ち名前を
 けのブツホウリウであつて鳴声は前の書いた様
 だ、グツ、グツと云う奇妙な声である。それで最近ラヂオ
 弄でブツホウリウの鳴声として録音放送をやって
 みるのはブツホウリウの声ではなくて、コノハツツの
 声である)又同じ森林でキーコキーコキーというイカル
 (雀の一種)の声を聞いたがこれも分布上面白い鳥
 である。清淨橋の少し上の所まで下りた時人の足
 んでゐるな、小屋があつたか、この家の朽ちた

木で非常に美しく珍らしいルリボシカミキリ虫
 名稱不明のカミキリを採集した。これは多分産卵を
 来たるものと思ふ。そのほか、路上の人糞虫では
 これも又珍らしいミーグテハ(又はミーモクテハ)と
 虫葉を採集した。(この虫葉は後翅の表面に銀色のCの
 線があるためはこの名がついたのである)

しばらく歩いて清浄橋たつたが、ここで、観山頂上
 から一森のふたつり石道と去合つてゐる。ここからは
 自動車が通れる標高低い道路になつてゐる。
 この道路上の湿気の多い所にはカラスアゲハやフナガアゲハ
 が黒々たる程沢山集つて水を吸つてゐるので、おんな
 盛んに捕虫網をかつて採集した。ここには休息所
 があつて、おとなが休んでゐると、丁度頂上から下りて来
 た朝倉君に会つたので意外であつた。朝倉君等は昨日
 頂上に登り、側提所まで泊つて今日の三峠の「ハス」で
 帰るのでとまつて、おとなより先にお登した。
 おとなもここで晝食をし、左のうらまこニシシキオ、ヨツスギ
 ハナカミキリ等を採集し、二時頃お登した。

ここから谷口まで(約七軒)は道が平坦で、所々に人
 家の散在してゐる。昆虫はあまり居なかつた。
 谷口に着いて小学校へ行つたが、採虫用紙と置いてあつた
 ので、直ぐ部屋を貸して呉れた。荷物を置いて少し
 休んだ後、尾花君と僕の二人で飯場鳴り行、少食
 を食つたが、この時味噌汁に入れたおとなのツブネガ
 の皮を飲むので、涙を流した。見、斜ではワソリ
 の煙で毎日涙を流し、ここへ来るとは又ツブネガで涙
 を流し、今日の採集会の宿ではおとなと涙を流し、続
 けてゐた。夕食後は岡田と云う先生(伊豆島の人

で川島田君とは非常に親しい先生である)から
 平家の子孫が~~あつとあつた~~か住んでゐると言わ
 れてゐる。祖谷せ木屋平附近の部落の風習や地
 名等について詳しく話して貰つた。

廿五日 晴 谷口 → 自家 穴吹 → 自家

ゆつくりと仕立をして十一時前の穴吹行バスに乗つた
 が周国先生も帰郷のため同乗した。

割合に多くの人に乗つてゐる最初の一時向はまゝで
 ぬたか途中で座かあるたので腰をわけ足の下に
 四匹の蛇のはいつた籠を置いた。しばらくしてぬた
 くなりうとくとしてぬたと膝の上をぞろぞろとはつて
 ぬたものかあり、ゆつくりして目をすますと僕と佐佐木
 の膝の上を一匹の蛇かはつてゐる。驚いて素速く掴ん
 たかそれと同時に佐佐木君も掴んでゐた。この蛇は
 佐佐木君がポケットに入れ籠を調べて見ると穴か
 ありてゐる。バスに揺られた蛇君あまり苦しくな
 つたのではらましてまゐるがさう。しかし本で刺した
 直ちにポケットの中へ監禁。何かなる蛇君も我々に
 はかなうまり。我々の前に立つてこれを見てゐた四十
 位の男の人、色を青くして汗をたらした……

この捕らして約一時間半バスに揺られた一時半頃穴
 吹に着き二時過ぎの上りの汽車に乗つたかみんな
 疲れてゐる様であまり話もせねた。客の外をばかめ
 てゐるばかりだ。

Sep. 5 1950 By Abe.

阿部

川島高橋

2年時(備)の

探検入道行記

須島果最商山

銀山探検記

夏尔水の中







